

実生盆栽の源流「吾妻山」

阿部倉吉が種一粒から挑んだBONSAIの起源

National
Parks
of Japan



吾妻山は、日本三大五葉松の自生地であり、そして日本の盆栽文化の重要な起源の一つとされます。その象徴的存在が阿部倉吉(1908-1992)、日本で初めて「実生」盆栽に挑んだ人物です。当時は山で育つ自然木を掘り起こして鉢植えする「山採り」が主流でしたが、「それでは後世に残る文化にはならない」と、20歳のときに種一粒から苗木を育てる実生による盆栽づくりに挑戦します。倉吉が「実生盆栽は三代かけてつくる」と語り、孫の世代に完成を託した吾妻五葉松の盆栽は、2028年に樹齢100年を迎えます。

倉吉は自ら種を蒔き育てた盆栽の完成の姿を見ることはありませんでしたが、人の手によって「吾妻山の景色」や「自然らしさ」を表現するための技術や考え方を約50年前に書籍化。その後、イタリア語・フランス語・スペイン語・英語に翻訳され、欧米にBONSAIを広める手引書となりました。

阿部倉吉が行った種蒔きは、日本の盆栽文化をBONSAIとして世界に伝える源流となり、自然の摂理や景色の捉え方など繊細で奥深い盆栽の世界を今に伝え、盆栽愛好家や職人にも大きな影響を与えています。

出典: ぼんさいやあべ [画像(上)] = 昭和30年頃

Adataru Azuma Nature Center [画像(下)] = 2028年に実生100年となる吾妻五葉松 / 二代目 阿部健一



特別保護地区 特別地域 普通地域 JR 私鉄 高速道路 観光道路